町民登場 107

日本盆栽作風展で内閣総理大臣賞を受賞した

大　町　　功（いさお）さん（大沢・33歳）

盆栽の素晴らしさ広めたい

受賞を喜ぶ大町功さんと真柏「双扇の舞」

「初めての入賞が、まさか内閣総理大臣賞だとは思いませんでした」と喜ぶ大町功さん。十月十一日に東京都で行われた第三十二回日本盆栽作風展で、内閣総理大臣賞を受賞しました。

同展には全国からプロの盆栽作家が丹精込めて作り上げた作品五十一点が出展されました。大町さんは五度目の挑戦ですが、関東以北では初受賞となる快挙に関係者は喜びに沸いています。

大町さんが出展したのは、真柏「双扇の舞」。二十三年前、父祐吉さんが個人宅の庭木として植えられていたこの木に一目惚れし、三年かけた交渉の末、譲り受けたものです。十年前に功さんが育成を受け継ぎ、親子二代でこの真柏を作り上げました。

大町さんが盆栽作家を志したのは高校の終わりころ。盆栽愛好家だった祐吉さんの影響もあり、高校卒業後に埼玉県で五年間の修行を積みました。現在実家の盆栽園・桃阳園を継いで若き作家として活躍する大町さんは、県内をはじめ、東北・北海道の愛好家からも依頼が来るほど、技術力と感性に高い評価を受けています。最近では海外での盆栽ブームを受け、アメリカや韓国で講師を務めることもあるそうです。

盆栽の魅力について聞いたところ「その木を見て、どのように作っていくかを考え、その形に導いていくところですね。木は成長するので管理が難しく、真の完成はありません」と真剣な表情で語る大町さん。

「盆栽は年配の方の趣味というイメージがありますが、海外でも人気が高まってきています。若い人にも盆栽の素晴らしさを広めていきたいですね」と笑顔で話してくれました。

南部馬方節全国大会 新保さんが優勝を飾る

賞状を手に喜びの新保公（いさお）さん

十月八日に八幡平市で開かれた第六回漆原栄美子杯南部馬方節全国大会で、新保公さん（長崎・五四）が見事優勝に輝きました。

大会には全国からのど自慢三十二人が参加。「優勝を目標にしていたのでほっとした部分もありますが、やはり優勝はうれしいですね」と喜びを語ります。

新保さんは昨年もこの大会に出場し、惜しくも三位に終わっています。「前回はまだ歌が自分のものになっていなかった」と反省し、歌の先生にアドバイスを受けながら練習。練習日以外でも車を運転しながら何十回も繰り返し歌うなど、影の努力が実を結んだ結果となりました。

新保さんは民謡を始めて十九年。現在は自身が副会長を務める山田民謡伝承会（阿部實会長）で会員へ歌の指導を行いながら、介護施設などへの慰問活動も精力的に行っています。

今後の抱負については「これからは民謡の良さを若い世代の皆さんに伝えていきたい。日本の伝統芸能である民謡をなくさないためにも、子供たちに小さいうちから民謡にふれる機会がつくれれば」と後継者の育成に意欲をのぞかせていました。

また、新保さんは十月十四日に東京都の両国国技館で行われた民謡民舞全国大会の民謡壮年部旗戦でも、この「南部馬方節」で三位に入賞しています。